

現代の3大リスクは
『地球温暖化』『事故・犯罪』『病気』
—生活リスク総合調査結果について—

2007年6月22日



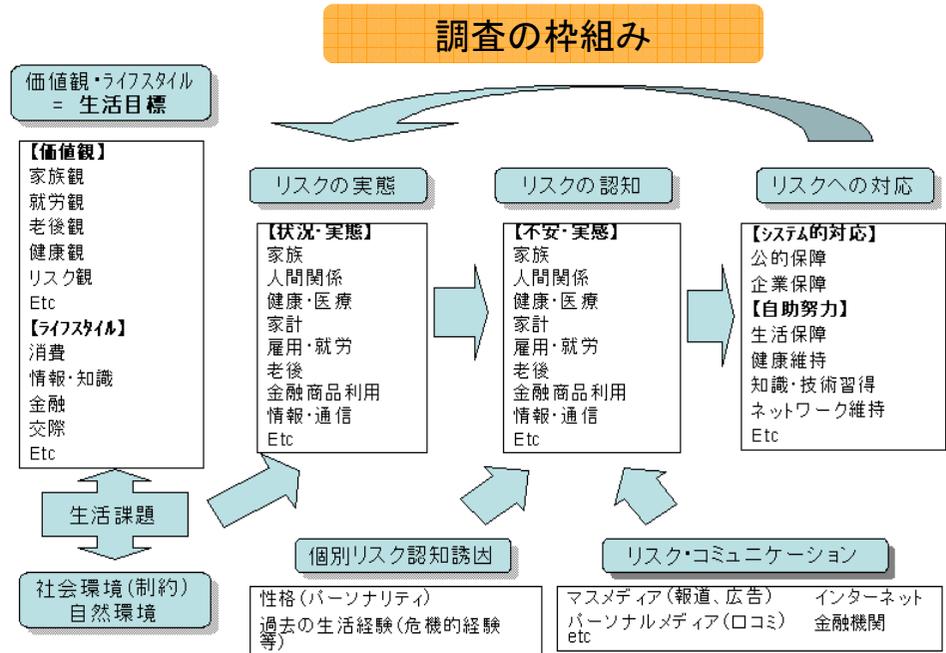
ニッセイ基礎研究所

生活リスク総合調査について

株式会社ニッセイ基礎研究所(社長:竹原功)では、「リスク社会における個人のリスク認識とリスク・マネジメントに関する研究」の一環として2007年3月に、「生活リスク総合調査」を実施しましたので、その結果の一部を発表させていただきます。

「生活リスク総合調査」はインターネット調査(gooリサーチ)で国内の20歳以上の男女個人を対象に実施し、25,278名から回答を得ています。

調査結果については、今後さらに詳細な分析を進めていく予定ですが、以下のような興味深い特徴がみられましたので、ご紹介させていただきます。



調査結果の概要

■リスク意識全体

- 人々は「環境」リスクに直面し深刻であると思っている
- 自助努力で対応できるリスクとそうでないリスクがある

■領域別リスク意識

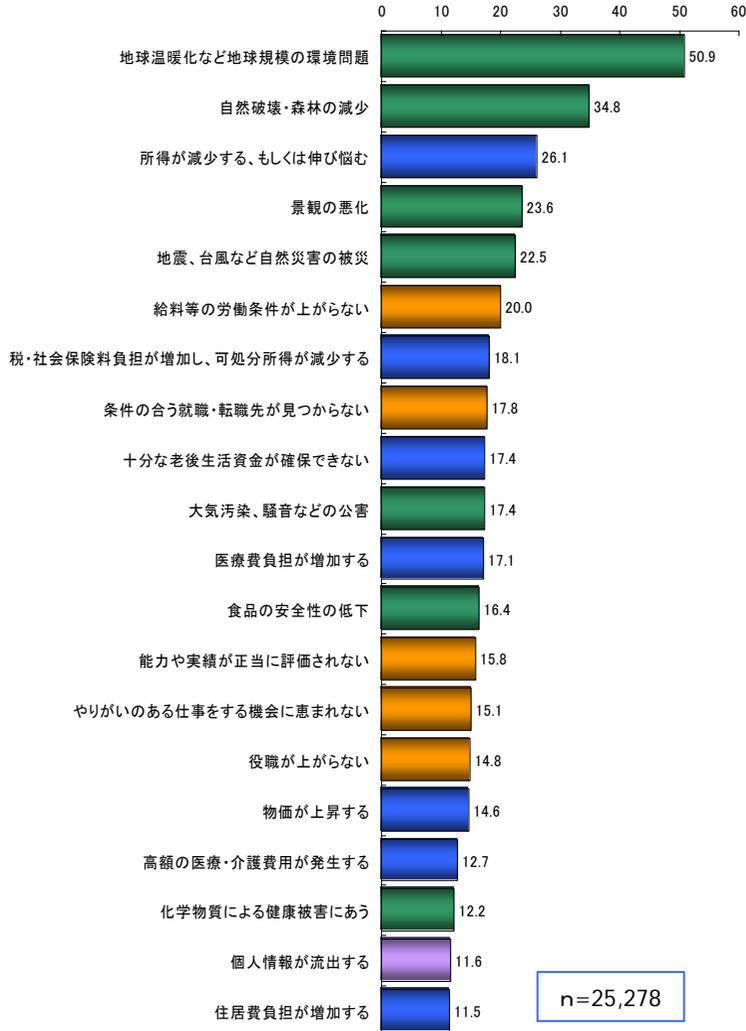
- 家族リスク～起きるリスクは家族関係が維持・形成できないこと、深刻なリスクは介護関係
- 就労リスク～起きるリスクは労働条件が上がらない、深刻なリスクは過労やストレスで心身の健康を損なう
- 健康リスク～「長期の入院・通院を要する病気やケガ」は起きるリスクであり、深刻なリスクでもある
- 家計リスク～起きるリスクは所得減少、深刻なリスクは医療・介護費用と老後生活資金
- 情報・ネットワークのリスク～個人情報流出、頼れる人がいなくなるリスクは、起きるリスクであり、深刻なリスクでもある
- 事故・犯罪リスク～事故遭遇、経済的損害を被る犯罪は、起きるリスクであり、深刻なリスクでもある
- 環境リスク～自然災害、環境問題、健康被害、火災、放射能汚染、いずれも8割以上が深刻なリスクと認識

■8割以上が「人生の危機」を経験、半数が家族や自分の病気・ケガ、2割が「いじめられた」経験

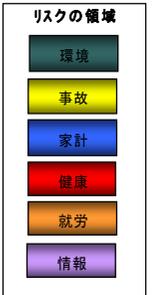
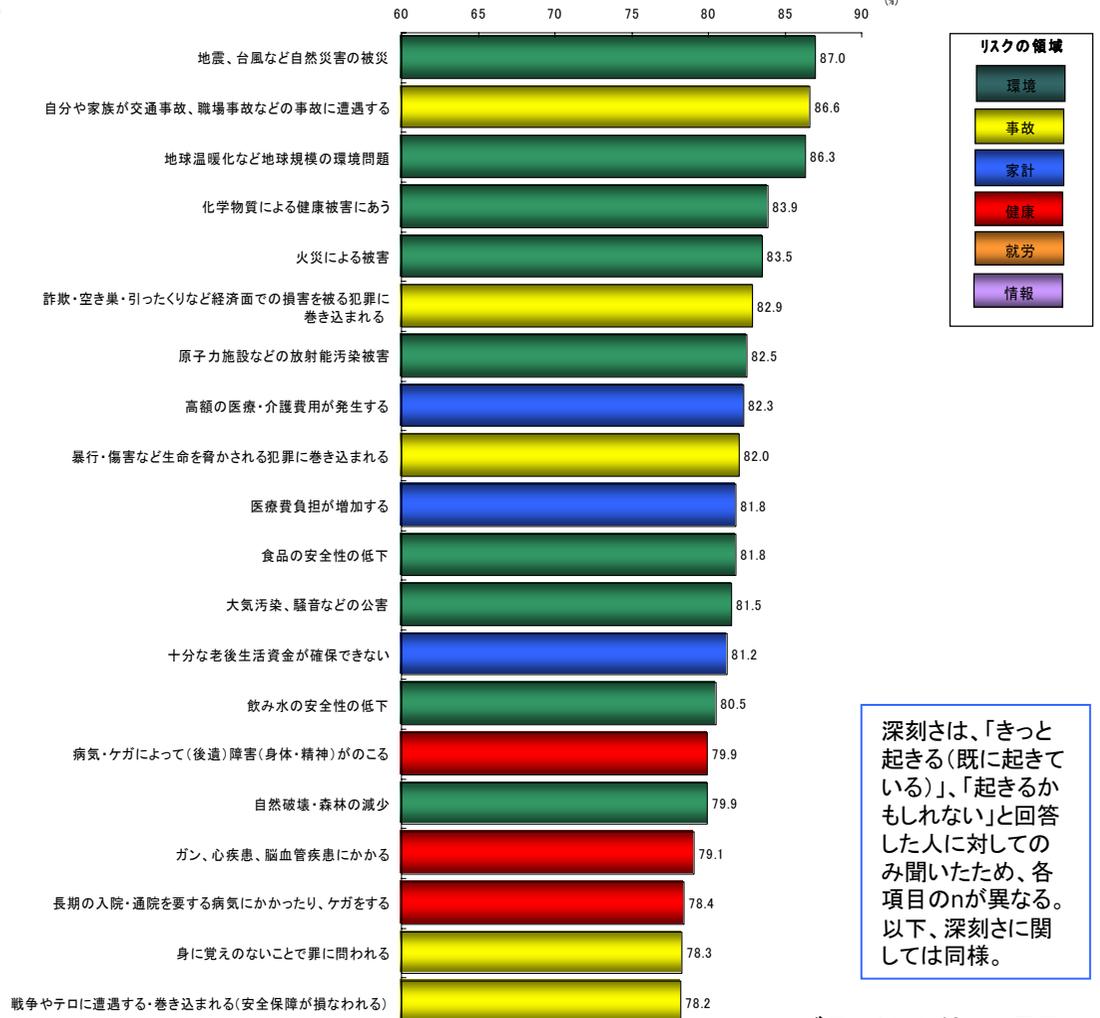
1. 人々は「環境」リスクに直面し深刻であると思っている

リスク全体について、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、環境問題や家計、就業に関するものが上位に多くあがっています。また、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)としては、環境問題の他、事故・犯罪、家計、健康・医療に関するものが上位に多くなっています。

図表1 : 既に起きていたり、きっと起きると認識するリスクは「環境」と「家計」



図表2 : 深刻だと実感するリスクは「環境」と「事故・犯罪」



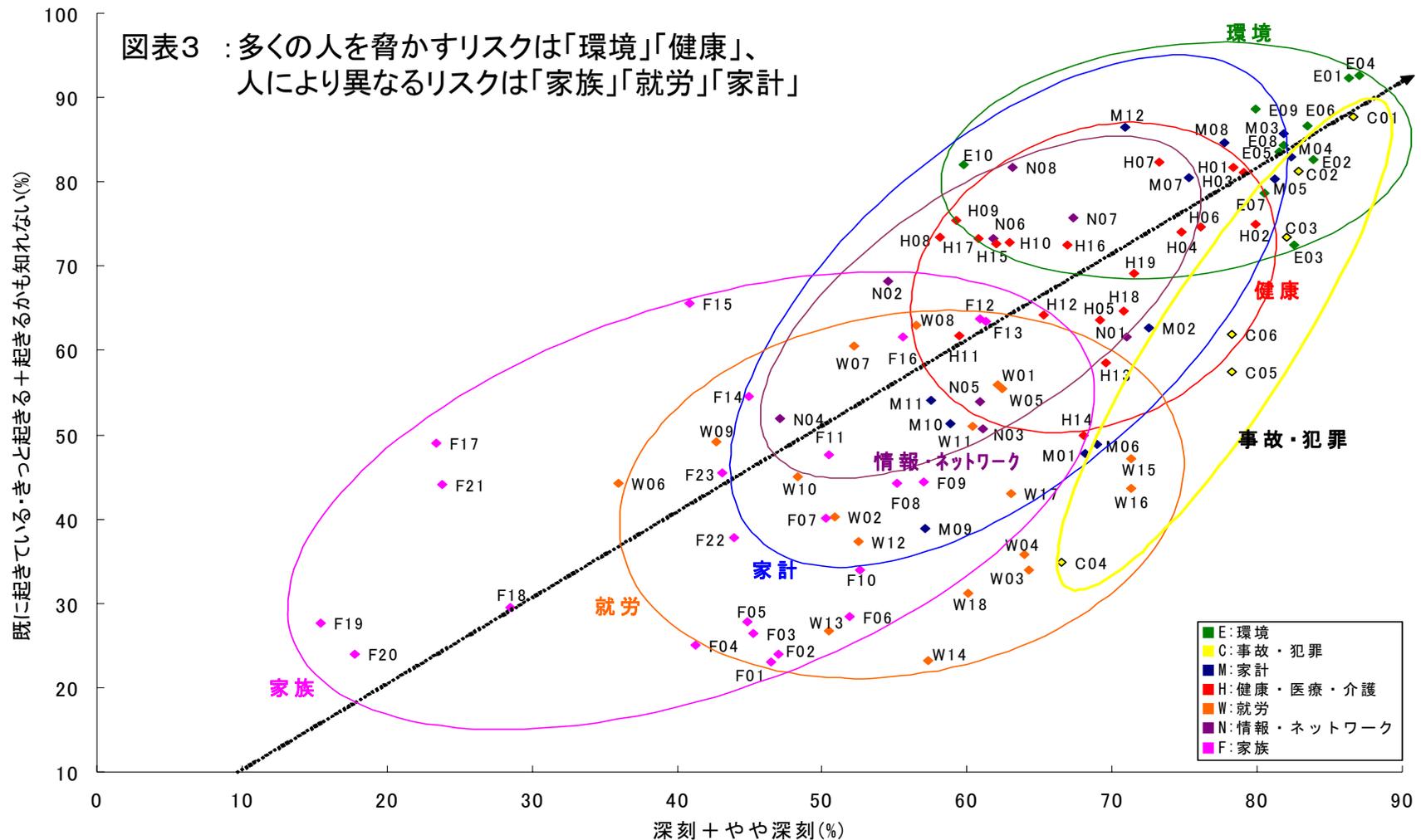
深刻さは、「きっと起きる(既に起きている)」、「起きるかもしれない」と回答した人に対するのみ聞いたため、各項目のnが異なる。以下、深刻さに関しては同様。

(グラフは上位20項目のみ)

2. 自助努力で対応できるリスクとそうでないリスクがある

リスク全体について、起きるかどうか(「きっと起きる(既に起きている)」、「起きるかもしれない」の計)と深刻かどうか(「深刻である」、「やや深刻である」の計)を組み合わせると、「環境問題」や「健康」が右上に集中しており、これらが人々の生活を脅かすリスクとして重大なものであることがわかります。これら以外については人により起きるかどうか、深刻かどうかは分かれるものが多いようです。

また、人々は、誰もが遭遇するリスクを「起きるリスク」と捉え、自分で回避できなかつたり、起きてしまった後で自分では対処しきれないリスクを「深刻なリスク」と捉えており、散布図右下(斜線より下)にある「事故・犯罪」は、自助努力で解決しにくいと考えるリスクであるといえます。

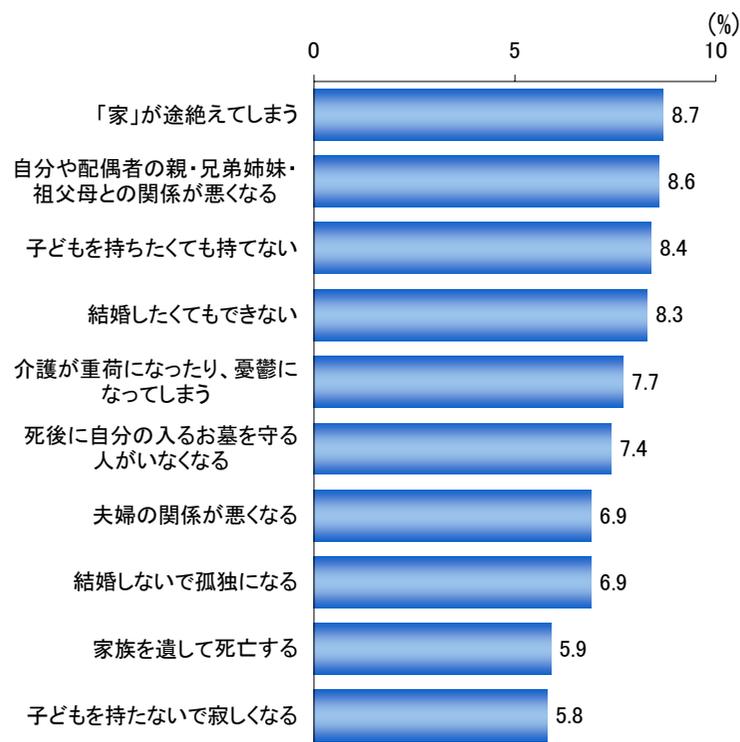


3-1 家族リスク～起きるリスクは家族関係が維持・形成できないこと、深刻なリスクは介護関係

家族リスクについて、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、「『家』が途絶えてしまう」(8.7%)、「自分や配偶者の親・兄弟姉妹・祖父母との関係が悪くなる」(8.6%)、「子どもを持ちたくても持てない」(8.4%)、「結婚したくてもできない」(8.3%)など、家族の維持・形成に関連するリスクが上位にきています。

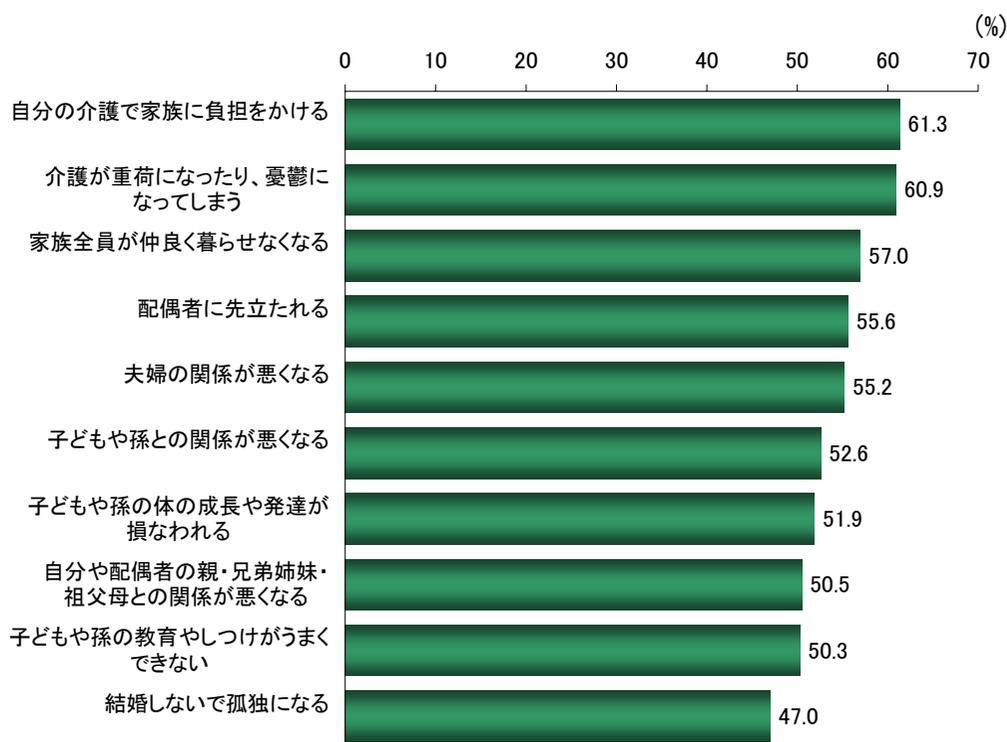
一方、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)としては、「自分の介護で家族に負担をかける」(61.3%)、「介護が重荷になったり、憂鬱になってしまう」(60.9%)といった介護に関わる項目が上位2位で、いずれも6割を超えています。

図表4 : 家族リスクとして起きるリスクは「『家』が途絶える」



n=25,278

図表5 : 家族リスクとして深刻なリスクは「介護で家族に負担をかける」



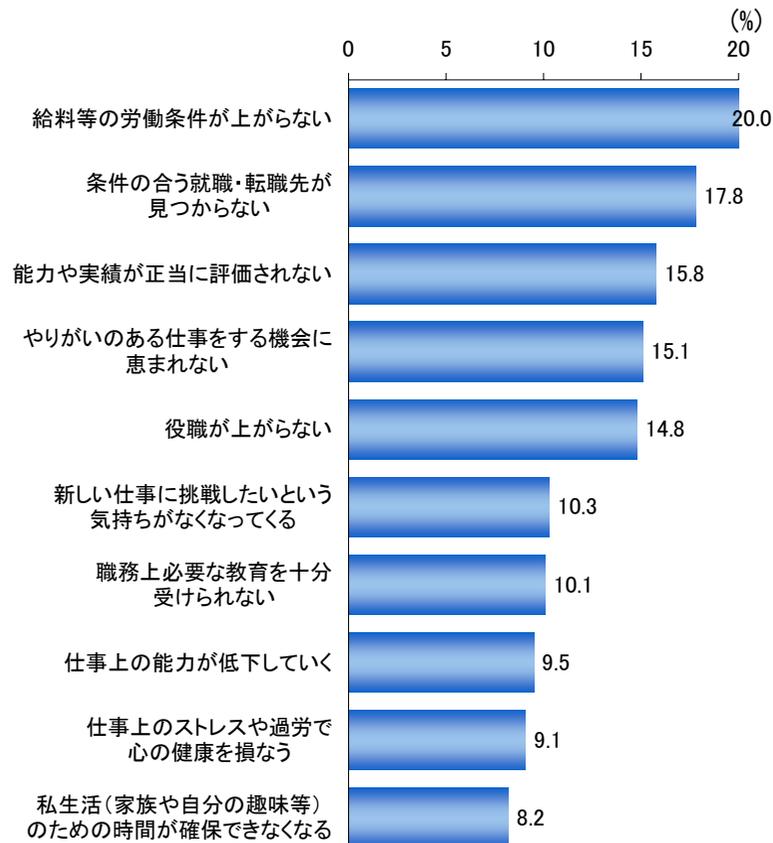
(グラフは上位10項目のみ)

3-2 就労リスク～起きるリスクは労働条件が上がらない、深刻なリスクは過労やストレスで心身の健康を損なう

就労リスクについて、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、「給料等の労働条件が上がらない」(20.0%)、「条件の合う就職・転職先が見つからない」(17.8%)といったように、希望と現実ギャップが生じるリスクが上位に来ています。

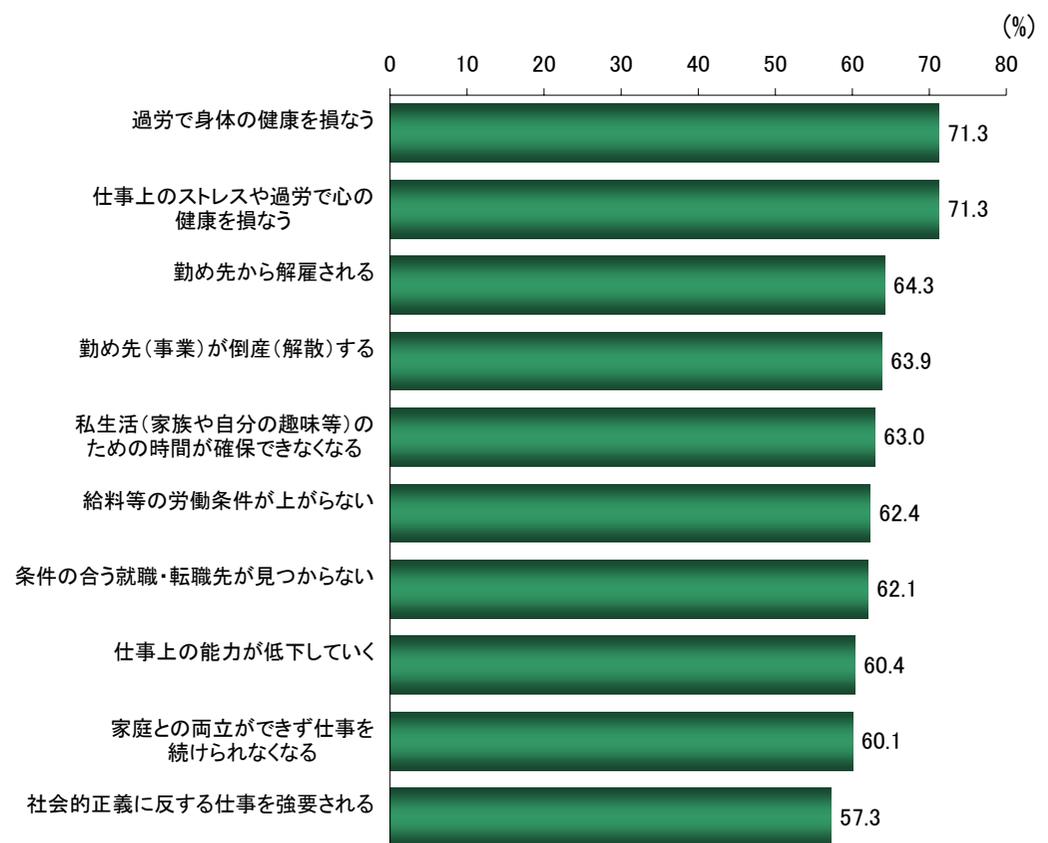
一方、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)としては、「過労で身体の健康を損なう」(71.3%)、「仕事上のストレスや過労で心の健康を損なう」(71.3%)が同率トップにあげられています。

図表6 :就労リスクとして起きるリスクは「労働条件が上がらない」



n=22,349

図表7 :就労リスクとして深刻なリスクは「過労で身体の健康を損なう」



※就労者および就労希望のある未就労者について

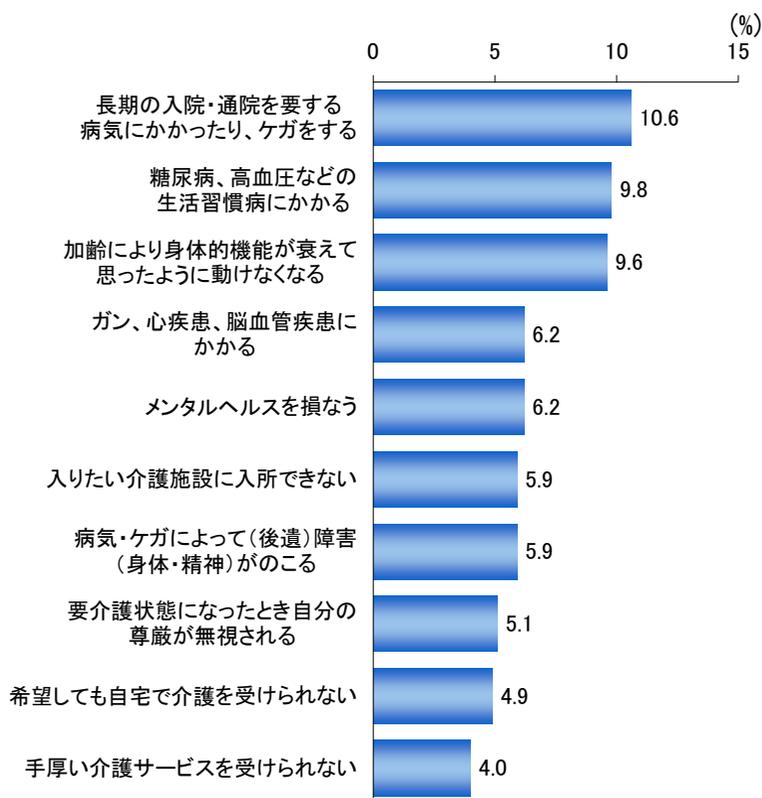
(グラフは上位10項目のみ)

3-3 健康リスク～「長期の入院・通院を要する病気やケガ」は起きるリスクであり、深刻なリスクでもある

健康リスクについて、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、「長期の入院・通院を要する病気にかかったり、ケガをする」(10.6%)、「糖尿病、高血圧などの生活習慣病にかかる」(9.8%)、「加齢により身体的機能が衰えて思ったように動けなくなる」(9.6%)が上位3位となっています。

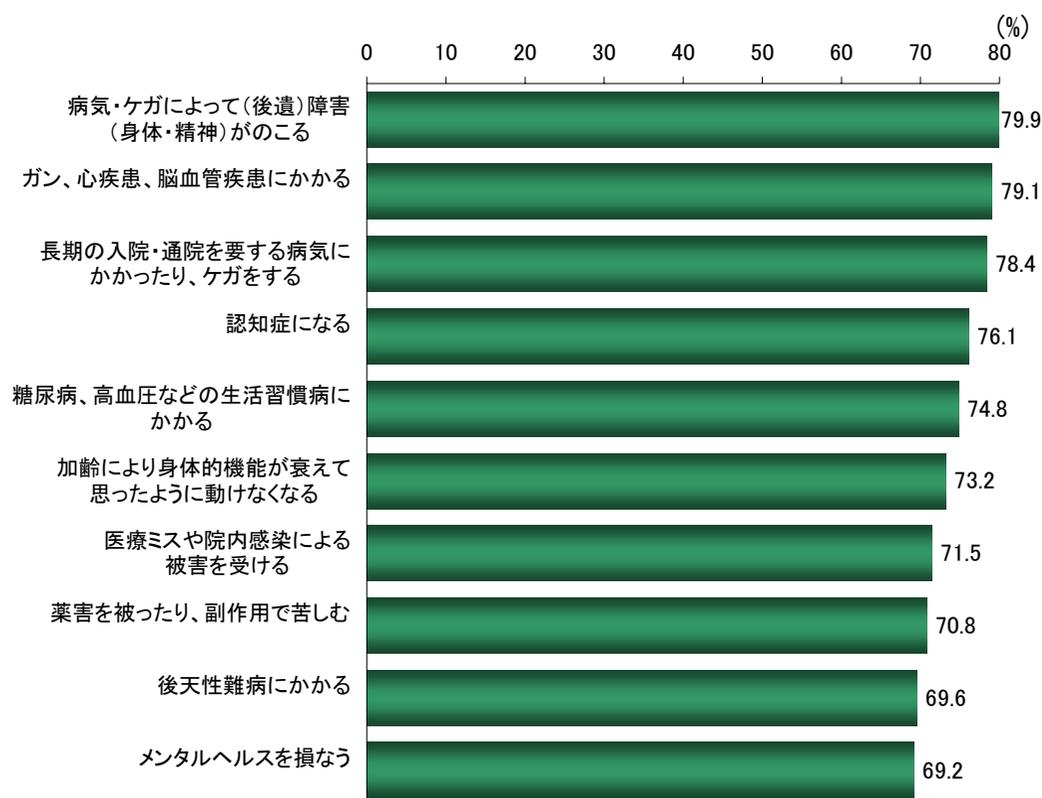
一方、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)としては、「病気・ケガによって(後遺)障害(身体・精神)がのこる」(79.9%)、「ガン、心疾患、脳血管疾患にかかる」(79.1%)、「長期の入院・通院を要する病気にかかったり、ケガをする」(78.4%)が上位3位となっています。

図表8 :健康リスクとして起きるリスクは「長期の入院・通院を要する病気やケガ」



n=25,278

図表9 :健康リスクとして深刻なリスクは「(後遺)障害」、「ガン、心疾患、脳血管疾患」



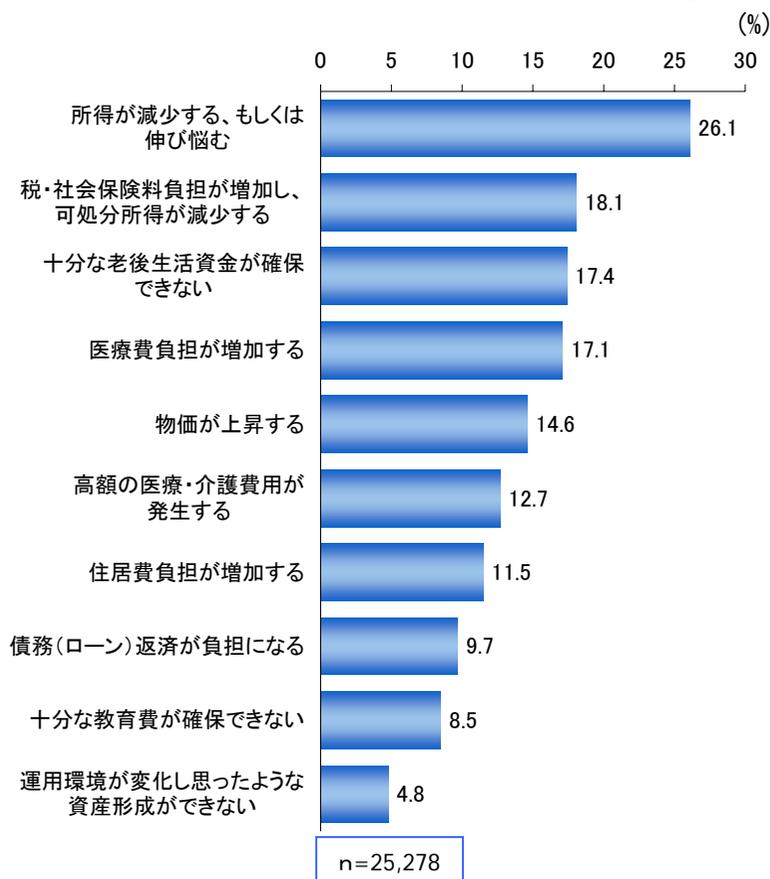
(グラフは上位10項目のみ)

3-4 家計リスク～起きるリスクは所得減少、深刻なリスクは医療・介護費用と老後生活資金

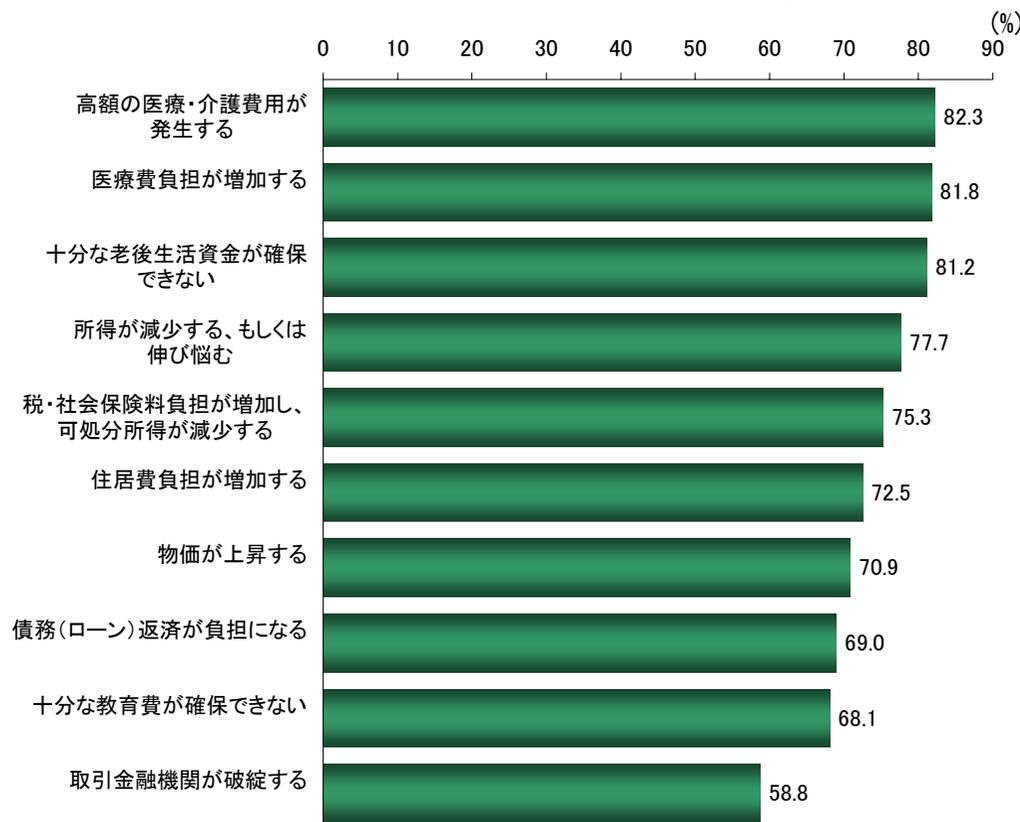
家計リスクについては、「所得が減少する、もしくは伸び悩む」が26.1%と、4人に1人が「きっと起きる(既に起きている)」リスクとして認識しています。次に、「税・社会保険料負担が増加し、可処分所得が減少する」(18.1%)、「十分な老後生活資金が確保できない」(17.4%)が続いています。

一方、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)としては、「高額な医療・介護費用が発生する」(82.3%)、「医療費負担が増加する」(81.8%)といった医療・介護費用に関わる項目や、「十分な老後生活資金が確保できない」(81.2%)が上位に来ています。

図表10 : 家計リスクとして起きるリスクは「所得の減少・伸び悩み」



図表11 : 家計リスクとして深刻なリスクは「高額な医療・介護費用」



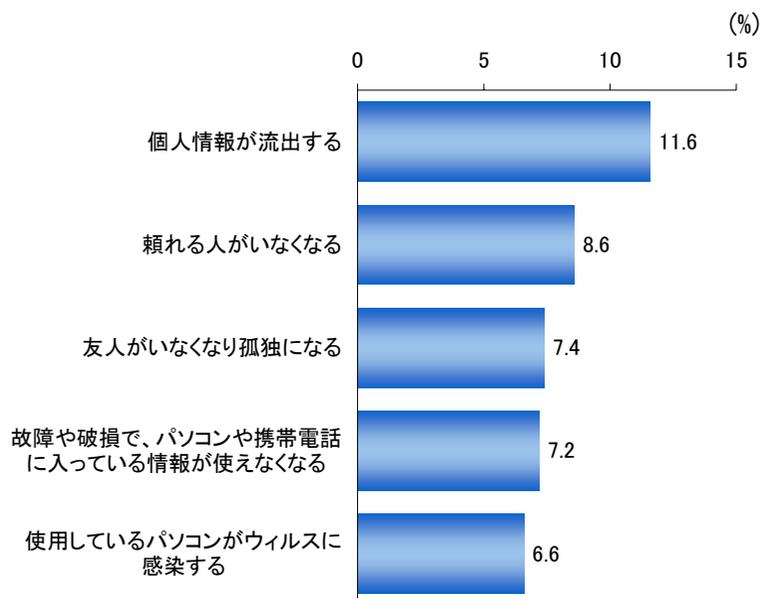
(グラフは上位10項目のみ)

3-5 情報・ネットワークのリスク～個人情報流出、頼れる人がいなくなるリスクは、起きるリスクであり、深刻なリスクでもある

情報・ネットワークに関するリスクについて、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、「個人情報流出する」(11.6%)、「頼れる人がいなくなる」(8.6%)が上位2位となっています。

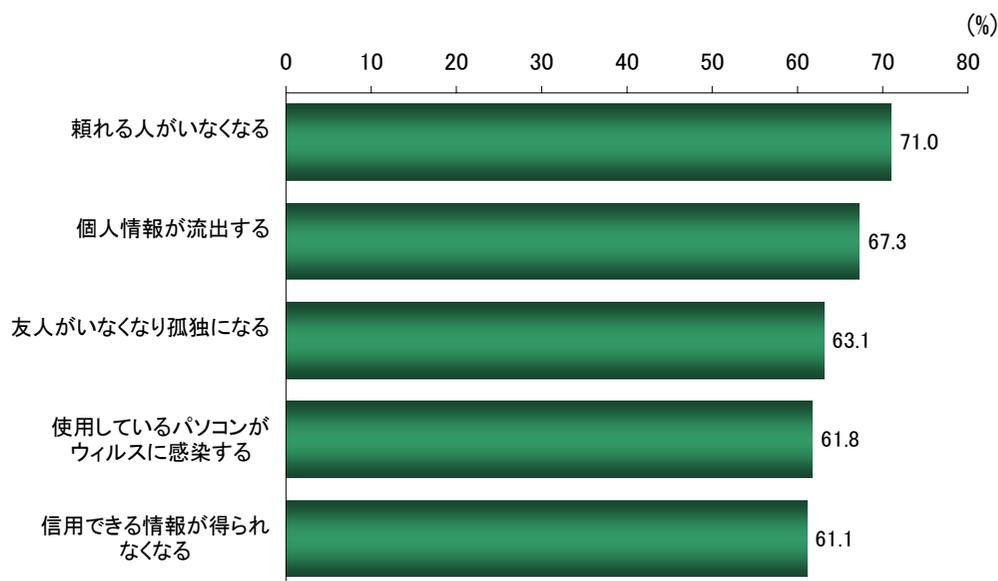
また、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)についても、「頼れる人がいなくなる」(71.0%)、「個人情報流出する」(67.3%)が上位2位で、いずれも7割前後に及んでいます。

図表12 : 情報リスクとして起きるリスクは「個人情報流出する」



n=25,278

図表13 : 情報リスクとして深刻なリスクは「頼れる人がいなくなる」



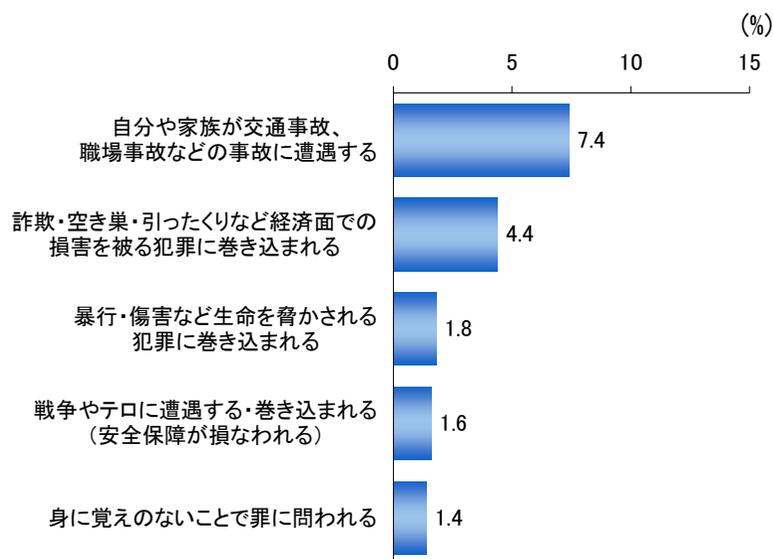
(グラフは上位5項目のみ)

3-6 事故・犯罪リスク～事故遭遇、経済的損害を被る犯罪は、起きるリスクであり、深刻なリスクでもある

事故・犯罪リスクについて、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、「自分や家族が交通事故、職場事故などの事故に遭遇する」(7.4%)、「詐欺・空き巣・引ったくりなど経済面での損害を被る犯罪に巻き込まれる」(4.4%)が上位に来ています。

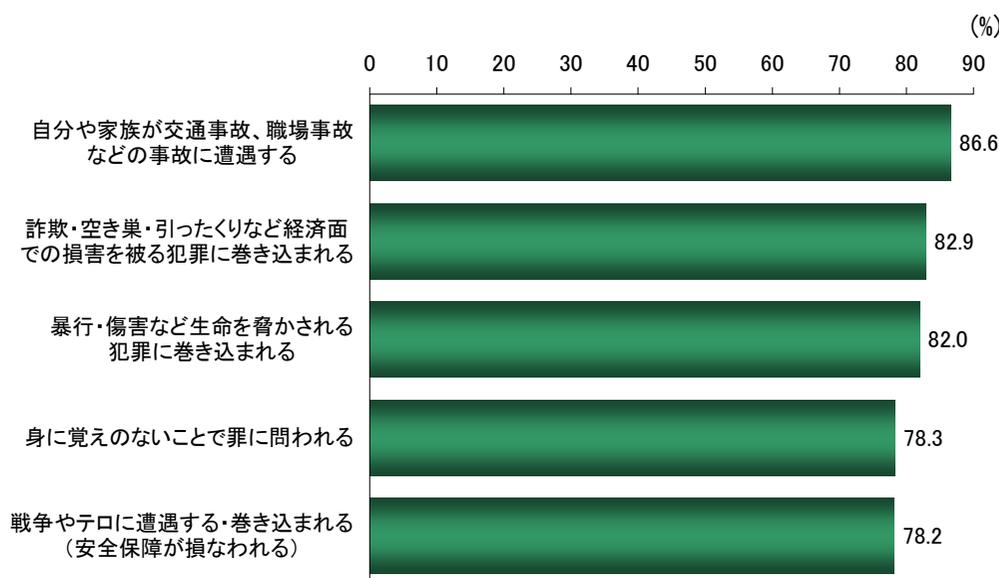
また、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)をみても、「自分や家族が交通事故、職場事故などの事故に遭遇する」(86.6%)、「詐欺・空き巣・引ったくりなど経済面での損害を被る犯罪に巻き込まれる」(82.9%)といったように、「起きる」回答率が高い項目が上位2位に並び、いずれも8割を超えています。

図表14 : 事故・犯罪リスクとして起きるリスクは「自分や家族が事故に遭遇する」



n=25,278

図表15 : 事故・犯罪リスクとして深刻なリスクは「自分や家族が事故に遭遇する」



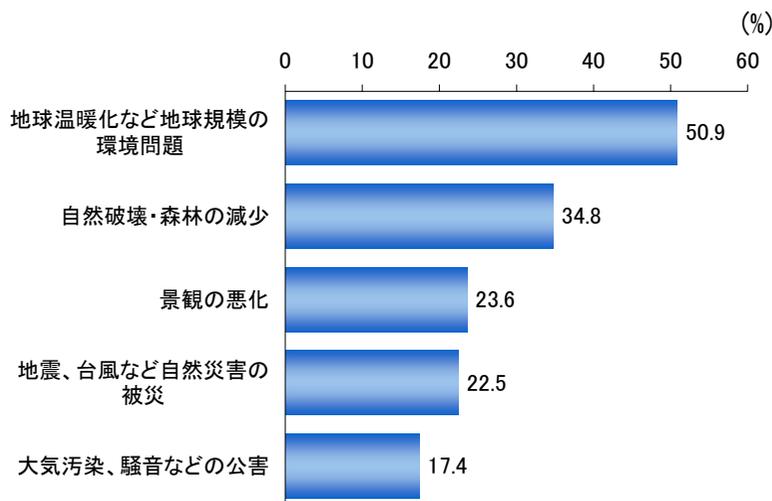
(グラフは上位5項目のみ)

3-7 環境リスク～自然災害、環境問題、健康被害、火災、放射能汚染、いずれも8割以上が深刻なリスクと認識

環境リスクについて、「きっと起きる(既に起きている)」という回答率をみると、「地球温暖化など地球規模の環境問題」(50.9%)が過半数を占め、トップにきています。

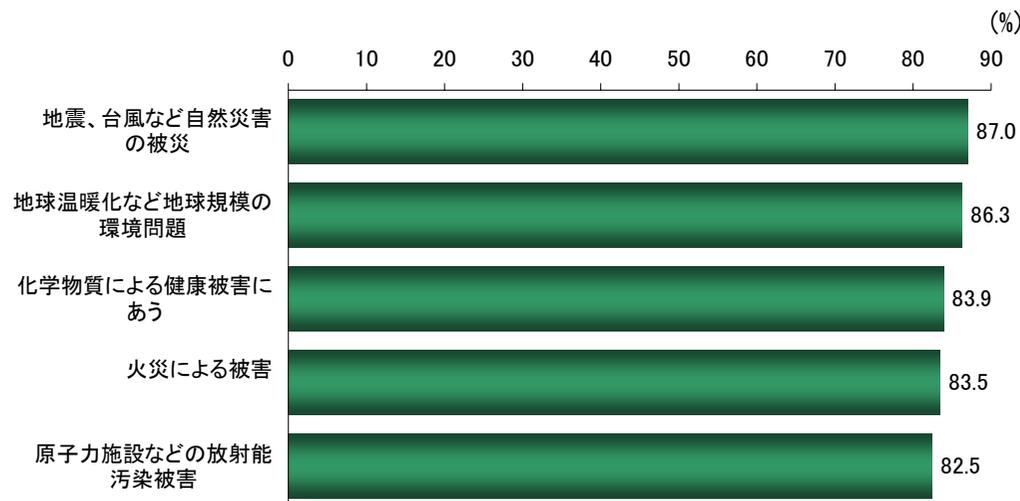
一方、深刻だと実感するリスク(「深刻である」、「やや深刻である」の計)としては、「地震、台風など自然災害の被災」(87.0%)、「地球温暖化など地球規模の環境問題」(86.3%)、「化学物質による健康被害にあう」(83.9%)、「火災による被害」(83.5%)、「原子力施設などの放射能汚染被害」(82.5%)が上位5位にあげられ、こうした幅広い項目で回答率が8割を超えています。

図表16 : 環境リスクとして起きるリスクは「地球規模の環境問題」



n=25,278

図表17 : 環境リスクとして深刻なリスクは「自然災害」、「環境問題」



(グラフは上位5項目のみ)

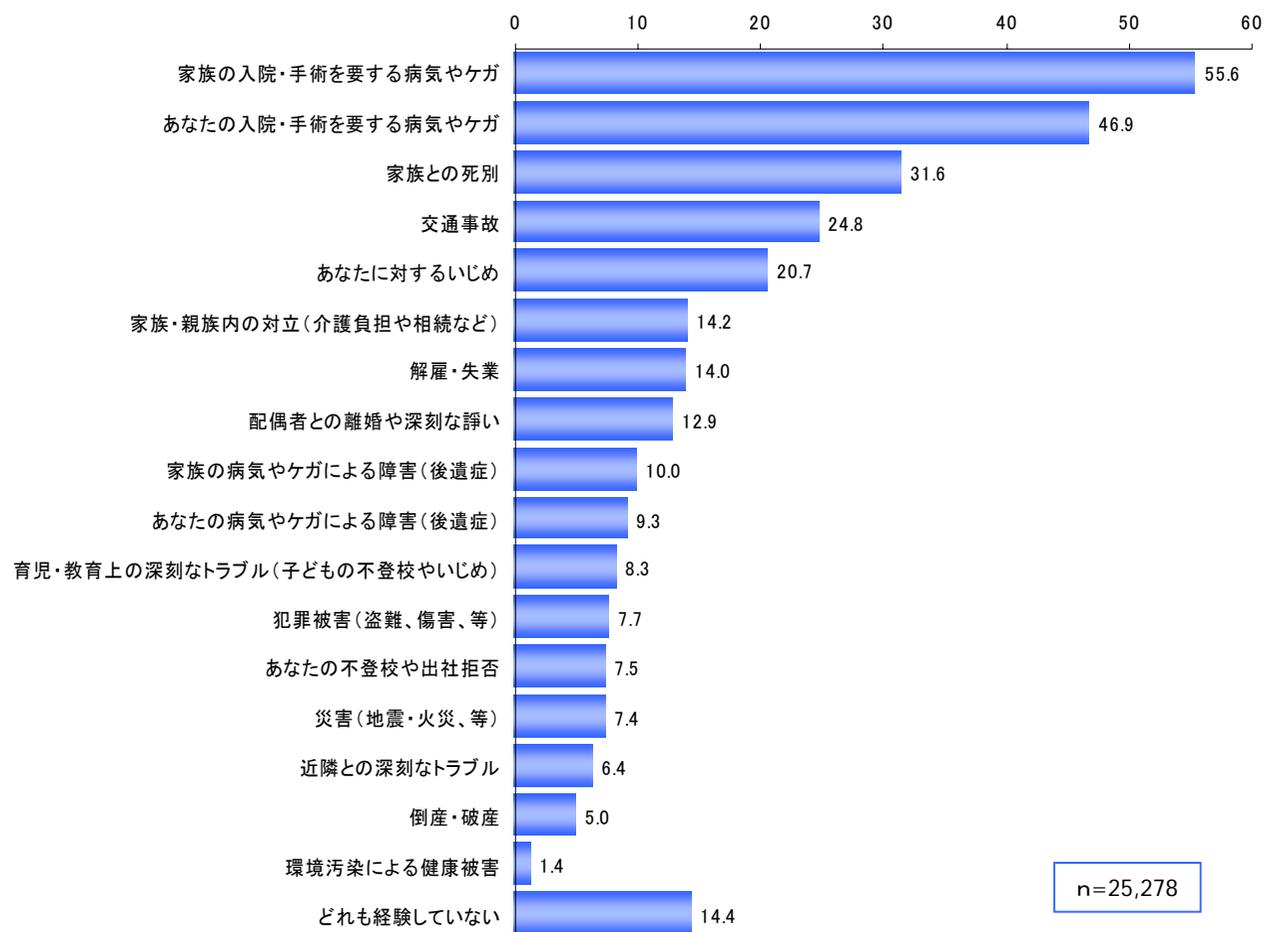
4. 8割以上が「人生の危機」を経験、半数が家族や自分の病気・ケガ、2割が「いじめられた」経験

これまでに経験したことのある「人生の危機」を聞いたところ、85.6%が何らかの経験があり、その内容は、「家族の入院・手術を要する病気やケガ」が55.6%と最も多く、「本人の入院や手術を要する病気やケガ」がそれに次いであげられています(46.9%)。

第3位、第4位は「家族との死別」、「交通事故」で、第5位には「本人に対するいじめ」(20.7%)が入っています。

リスクとして認識が高かった環境問題については、「環境汚染による健康被害」の経験者が1.4%となっています。

図表18 経験したことのある「人生の危機」は家族や自分の病気やケガが多い (%)



n=25,278

※複数回答



本件に関するお問い合わせ

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7

株式会社ニッセイ基礎研究所 (www.nli-research.co.jp)

梶本(企画総務部 広報担当) 03-3512-1772 kajimoto@nli-research.co.jp

栗林(生活研究部門) 03-3512-1779 akuri@nli-research.co.jp